

東京新宿東ライオンズクラブ 会長賞
林精華（リン・セイカ） 中国
東進ランゲージスクール

エレベーター

私は今住んでいる家のエレベーターを恐れています。隣のおばさんとエレベーターと一緒に乗るのが怖いのです。引っ越して来た時、私はこの小さなエレベーターがとても気に入りました。5階から下っていくとすぐ自動販売機とマクドナルドがあって、小さな幸せ空間でした。しかし、隣のおばさんが入ってきた日から、エレベーターは緊張と心配の空間に変わってしまいました。

その頃の私は〈おはようございます〉と〈こんにちは〉も区別できないほど日本語が下手でした。初めて会ったおばさんに何と挨拶したらいい？午前10時半は、〈おはようございます〉？〈こんにちは〉？と迷っている間に、おばさんが「こんにちは」と私に挨拶をしました。私も「こんにちは」と返しました。無事に挨拶をしてほっとしていたのに、おばさんは挨拶だけでは終わりませんでした。

おばさんの話は長く、私は何とか理解しようとしてしましたが、知っている言葉は聞こえません。それでもおばさんはあきらめず、「～ですか？」と、私に質問までするのでした。数秒しかないエレベーターの時間が長すぎると感じられました。結局一言もわからなかった私が「すみません、分かりません」と答えたら、エレベーターのドアが開いていました。私は頭を下げたままエレベーターを飛び出しました。

その事件でエレベーターは恐怖の空間になってしまいました。その後、何度もエレベーターでおばさんに会いましたが、その瞬間、緊張し、気まずい時間が続きました。

そして3ヶ月が過ぎ、授業時間が変わったら、おばさんに会うことはなくなりました。エレベーターに乗り、1階の自動販売機でコーラを買って飲む平和な日常が戻ってきました。

また3ヶ月が過ぎ、日本に来て半年になりました。私は挨拶はもちろん、簡単な日常会話もできるほどになっていました。

この日もエレベーターに乗りました。閉まりかけたドアから隣のおばさんが見えて、急いで開くボタンを押しました。おばさんは慌てて飛び込んで来て「久しぶりですね」と挨拶をしました。

「どこの国の方ですか？」

「中国人です。日本に来て、6ヶ月ぐらいです」

「本当？まだ1年にならないのに、そんなに上手なの？」

「いいえ、まだまだです」

おばさんと話しながらエレベーターを降り、気がついたら駅でした。そう遠くない距離でしたが本当に多くの話をしました。おばさんは本当に親切で思いやりのある人でした。

おばさんと別れてから、私はおばさんと初めてエレベーターで会った日を思い出しました。その頃の私は本当に小心で消極的でした。「なぜ日本へ来ましたか？」と聞かれると、恥ずかしい気持ちになりました。

「日本語を学ぶため、日本が好きだから」私には、他の友達のような理由がありませんでした。私は日本に対して何の感情もないまま、ただ彼氏に付いて日本に来たのです。おばさんにだけではなく、日本という新しい環境すべてに臆病に反応していた自分に、その時気づかされました。

日本語がわからないことに、なぜあんなに自信がなく、萎縮したのでしょうか？日本に来たばかりの人を、日本語ができないと笑う人はいないのに。新しい国で新しい文化を学び、適応しようとするのは、こんなに魅力的なのですが。私は過去の日本での生活について反省しました。そしてこれからは、堂々として積極的にすべてに接しようと決心しました。

今の私には、日本語と中国語に関する仕事がしたいという目標があります。そして、中国語の教師としてアルバイトも始めました。

今ではエレベーターでおばさんと会ったら、どのような話を交わすかわくわくしています。そして私は今日も堂々と自信を持ってエレベーターを出ました。